

2020 明治安田生命 J3 リーグ 第 22 節 vs. 福島ユナイテッド

10/18 (日) 14:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

岐大通 2020

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いします。

2020J3 順位表 第21節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

（注：*印は消化試合が1つ少ない）

1	秋田	53p	+32	39	7	H●
2	熊本	41p	+13	39	26	HO AO
3	長野	39p	+16	32	16	H●
4	相模原	38p	+3	28	25	A●
5	岐阜	37p	+6	35	29	---
6	鹿児島	36p	+7	34	27	AO H●
7	鳥取	33p	+3	28	25	AO
8	今治	32p	+5	21	16	H△ AO
9	藤枝	31p	+2	35	33	A●
*10	富山	27p	+4	33	29	AO
11	G阪23	24p	-5	31	36	HO
12	沼津	23p	-6	23	29	A△ HO
13	岩手	23p	-13	19	32	H△
14	福島	21p	-9	29	38	AO
15	YS横浜	19p	-17	26	43	HO
*16	八戸	18p	-11	25	36	AO
17	讃岐	16p	-11	22	33	H△
18	C阪23	14p	-19	21	40	A●

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第24節 vs.SC相模原

10/31 (日) 15:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

today's guest : 福島ユナイテッド

2019 J3 13勝4分17敗 勝ち点43:11位

直近の対決と結果

2020/09/09

J3 - 11節@とうスタ

福島 0-2 岐阜

橋本和, 大西遼太郎 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		福島ユナイテッド	
2020/10/14 J3 - 12節@長良川 岐阜 0-5 秋田		2020/10/11 J3 - 21節@とうスタ 福島 2-3 熊本	
2020/10/11 J3 - 21節@長良川 岐阜 0-1 鹿児島		2020/10/07 J3 - 20節@とうスタ 福島 3-0 C阪23	
2020/10/07 J3 - 20節@夢スタ 今治 2-3 岐阜		2020/10/03 J3 - 19節@プラスタ 八戸 2-3 福島	

福島ユナイテッド

2004(平成16)年に福島夢集団JUNKERS(コンカース)が設立される。福島県リーグ2部所属の2006(平成18)年に、当時は東北リーグ2部に所属のペラーダ福島の運営を譲り受ける(下部カテのチームが上部カテのチームを吸収する)形で東北リーグに参戦。2008(平成20)年よりチーム名を福島ユナイテッドとし、セカンドチーム化していたコンカースはシャイネン福島として分離。2012(平成24)年の地域決勝で準優勝となりJFL昇格。2014(平成26)年よりJ3参戦。なお、チーム名の『ユナイテッド』には「福島県の3地域(会津、中通り(東北線沿い)、浜通り(常磐線沿い))がひとつになって」という意味が込められているようで、上記の(コンカースとペラーダ)の吸収合併のことを指すのではないらしい。(吉田鑄造)

●2020 シーズン後半戦の大きなヤマ場となる、10月の5連戦・ホーム3連戦。その4戦目、中2日での10/14(水)には首位・秋田をホームに迎えて8/30(日)第12節の代替試合が行われた。試合は序盤から秋田のペースで進むが、岐阜も粘り強く守備をしてゴールを割らせない。ところが前半アディショナルタイムにゴール前の混戦で痛恨のオウンゴール。後半開始直後にもクロスボールで失点すると、前掛かりになったGKの頭上を超すロングシュートで2失点。そして三度クロスボールで失点し、後半20分足らずで4失点と守備が崩壊する岐阜。その後、まずは1点を返すべく攻勢を掛けるが、堅牢を誇る秋田の守備を破ることはできず、0-5での惨敗。非常に重要な試合を手酷い内容で落とし、連敗を喫してしまった。この試合で完敗したFC岐阜だが、J3では他に試合が行われていないため、順位は5位のまま。ただし、これで1試合未消化という岐阜の優位性は無くなったし、得失点差では他の上位チームよりも不利な状況になってしまった。しかし、2位・熊本との勝ち点差は4しかなく、そして2020シーズンはまだ13試合も残っている。シーズン最終節が終了した段階で2位以内に入ってJ2復帰を果たすために、気持ちを切り替えて、目の前の試合での勝利に全力を尽くしてゆくしかない。

さて、10月の5連戦そしてホーム3連戦の最後となる、今節の対戦相手は福島ユナイテッドFCだ。昨季は11位に終わり、松田岳夫監督体制2年目の今季は飛躍を目指しているが、多くの主力選手が流出した影響で、チームの成熟がなかなか進まずに低迷し、現在は14位。しかし、岐阜が中3日目で試合を迎えるのに対し、福島は中6日。しっかりと休養をとって試合に臨む福島は、やはり疲労の蓄積した岐阜にとって難敵になるだろう。

福島で最も警戒しなければならない選手は、10ゴールを挙げてJ3得点ランク3位タイの#9 イスマイラだ。このナイジェリア出身の長身FWを中心に、福島の攻撃は組み立てられている。彼に仕事をさせないことが、岐阜が勝利するための第一条件だ。また、#40 樋口寛規は2012~2013年に清水から期限付き移籍で岐阜に在籍していた選手。現在の岐阜には彼と共に戦った選手はいないが、古巣対決に気持ちが入っていることだろう。そして、岐阜の#28 永島悠史と福島の#7 田村亮介は、1つ違い(#28 永島が若い)で京都ユース-京都でチームメイト、岐阜の#23 大西遼太郎と福島の#18 橋本陸は、ともに昨年の天皇杯を沸かせた法政大学卒のルーキー同士だ。かつての仲間だった対戦相手とのマッチアップにも注目したい。福島と岐阜との対戦は、今回で2戦目になる。初対戦だった今シーズン前半戦・アウェイ第11節は、8/22(土)に前半で岐阜が2点を奪って終えたが、後半に入る直前に雷雨のため試合は中断。9/9(水)にスタジアムを変更して後半45分を戦い、最終的に岐阜が2-0で勝利した。今節も福島に勝利して、連敗を脱出しなくてはならない。

また10/15(木)には、#35 レウ選手の新加入が発表された。昨季は湘南と水戸でプレーしたブラジル人MFは、水戸で仲田監督(当時はコーチ)の指導も受けている。新戦力の加入でチームが活性化することを期待しよう。

そして今節は『岐阜市民総力戦』となり、多くの観客が来場するだろう。観戦ルールを遵守しつつ、スタジアムを埋める多くのサポーターが、選手・スタッフたちと"ICHIGAN"となって勝利を目指そう。タオマフ・ゲーフラの掲出(振るのは禁止)や手拍子・拍手で、勝利を掴むために最後まで走り続ける選手たちの背中を支えよう。そして、5連戦を勝利で締めて選手たちと歓喜を分かち合い、再びJ2昇格争いのレースに挑んでいこう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第12節】岐阜 0-5 秋田

●完敗、これ以上の確な言葉があるだろうか。全ての面において秋田に上回られたと言っている。

この差を埋めるのは容易ではないだろう。ただ岐阜が決して悪いわけではなかったというのが救いだろうか。下を向いている暇もなくまたすぐ福島戦がやってくる。木金土、この3日間できに切り替えていくか。そこが肝となってくるのは間違いない。

(岐阜の誇り)

●20試合して未だ無敗の圧倒的首位・秋田との直接対決。中2日で迎える重要な試合に、スタメン6名を入れ替えた岐阜に対し、秋田は3名。前節で負けた岐阜と試合終了直前に逆転勝利した秋田では違うとはいえ、アウェイ連戦でも秋田は平気なのか…。そして、今季の秋田の凄まじい強さは、映像でよく分かっていたつもりだったが、実際に目を見ると、さらに凄まじかった。まず、ボールや相手への反応、動き出しが圧倒的に早い。そして、当たり負けしない。秋田の全員が#15町田ブライトのような感じだ(苦笑)。岐阜の選手が少しでも足を止めてボールを待っていたり、あるいはパスの精度や勢いがないと、秋田の選手に奪われてしまう。そしてボールを奪うと、迷わずシンプルかつ力強く縦に、蹴り出すかドリブルで仕掛ける。選手たちが戦術を理解しており、周囲の選手はサポートで動き、厚みのある攻撃になる。そして、しっかりと練習を積み重ねて精度の高いセットプレー。左右からのロングスローも脅威だし、#15江口直生の右足からは精度の高いボールが毎回送り込まれてくる。そして、多くの選手がずっと声を出し続けている。これは強い…シンプルだけれど、磨き上げてJ3で勝つために最適化されたような強さだ。これに対し、岐阜は仲田監督になって初めての3バック(たぶん3-4-2-1かな?)で対抗。前半14分に抜け出した#22柳澤亘が撃ったシュートは、GK#21田中雄大が弾いて、わずかにクロスバー。このワンチャンスで岐阜が得点できていれば…。しかし、その後は決定機をつくることができず、我慢して粘り強く守備に回る時間帯。このまま前半を終えられるかと思っただが、アディショナルタイムに岐阜のゴール前にクロスを上げられると、混戦の中でミスが重なり、まさかのOWNゴール…そしてそのまま前半終了。この嫌な流れをハーフタイムで断ち切れなかった岐阜は、後半立ち上がりから失点。これで気持ちが切れたのか、岐阜の選手たちの動きが鈍る。ボールを受けるための動き出しやサポート、あるいは縦に仕掛けるプレーが見られなくなっていく。そんな中で、GKの頭上を越すロングシュートでの立て続けの2失点。もちろんGK#31松本拓也のミスは致命的だが、彼だけの責任というわけでもないだろう。そして、あれを2本も蹴り込める#15江口の凄さ…なんでこんなのがJ3にいるの…(溜息)。攻撃のギアを入れるべく、岐阜も4名の選手交代をするが、逆に5点目を決められ、残り時間が30分近くあるのに、ほぼ試合は決した状態に。その後、秋田が主力選手を休ませたことで岐阜が攻勢に出られるようになるが、戦術の徹底ができていないので、フィニッシュの場面でミスが出たり、精度を欠いてしまう。またGK#21田中の好守にも阻まれ、秋田のゴールを割ることができない。そのまま、0-5での屈辱的な敗戦…これまでも5点差以上をつけられて負けたことは何度かあったが、無得点で負けたのは初めてじゃないだろうか。そんな、ぐうの音も出ないような完敗。これで秋田は開幕からの無敗記録を21に更新。このまま無敗優勝しちゃうんじゃないかしら?(苦笑)そして、岐阜には何が足りないのかが…いろいろ足りないような気もしますが…明確になったような気もする。個人的には、縦への推進力が圧倒的に足りていないと思う。そして、以前から気になっていたのだけれど、安易に消極的なバックパスをして、攻撃のチャンスを自ら潰す悪癖が散見される。もっと自分たちのサッカーを信じて、積極的にチャレンジしてほしいのだけれど…。

まあ、これだけボコボコにされると、逆に清々しいというか、次の試合に気持ちを切り替えやすいかな、と思う。秋田の独走は止められなかったけれど、まだ今季の試合は続く。次から再び連勝を重ねよう。(ささたく)

●ようやく、終わったか。コレが試合後の感想です。なんなら、ボクシング的に「タオル投げて?」とすら思ってたくらいのツラ

イ試合。でも、一番ツライのは選手だよな……と、思う反面、非難は承知で言わせていただければ、『無様な試合。ただ、ただ、無様すぎる試合。』でした。長良川でやっていい試合ではない。そういうことだと思います。追う側としてやってはいけない時間帯に与えてしまう。そして、ダメ押しのGKからのパスミス。拓也には気の毒だけど、ボクが監督なら次節からはベンチですよ。いや、ホントに、ここまで無様な試合は久しぶりでした。現地観戦の方々の気持ちがいやられます。

ただ、クラブの目標の一つである『1年でのJ2復帰』は、ありがたいことに優勝が条件ではない。逆に、秋田は独走させればいい。2位に滑り込めば『優勝(笑)』ですから。選手たちの反骨心、奮起に期待します。するしかないよね?

……と試合直後の感情に任せて書いたものの、冷静になって考えてみると、いろいろ間違ってた。拓也の件は、元々最終ラインの一員としてのプレーが持ち味なので、高い位置を取るがデフォ。それを熟知してる相手が抜け目なかったということ。それが、現在まで無敗の首位たる所以。あと、言わずもがなだけ、『無様』だったのは試合途中で見る気なくした自分も同じ。

そう言えば、この試合同様、水曜日に行われた『2-8』の試合は終了後も声を出し続けてたなあ。声援を送り続けたからこそ、最後まで戦えたということか。選手だけじゃなく、自分自身にも力を与えてくれてたんだな、声援ってヤツは。現地で声を出したい。声援を送りたいよ。

でも、今はまだガマン、ガマン。選手といっしょにガマンする。耐える。頑張ろう!(ぐん)

●完敗だったのは間違いないのだけれど、この試合は『希望に満ちた完敗』だった。どこが?それはあとで説明します。

相手は今季20試合で失点がわずかに7の首位。そこだけだと『堅守』のチームになるが、実は得点も20試合で34、4位タイ。この2つを足して出てくる形容はただ一つ、『強い』だ。とはいえ、前節はリーグ最下位のセレッソU-23に2点を奪われるなど、少々翳(かげ)りも見えてきて、岐阜も秋田も中2日、岐阜はホーム連戦で秋田はアウェイ連戦。このあたりがアドバンテージになって、秋田に今季初黒星をつけることが出来るかも……と試合前は期待したよ。してたよ。でも、そんな些末な優位性はどうでもよかったですね。

前半のうちから「これは試合になってない」と思った。岐阜の選手が「雑に」「いい加減に」「適当に」サッカーをやっているとは思っていない。でも、それはあくまで意志の問題で、この日の秋田のサッカーと比べると岐阜のサッカーは「雑」で「いい加減」で「適当」だった。ボールを動かす側と受ける側の、チームの意志。パスの精度。相手に奪われた際のファースト・ディフェンスとカバーリングを支える運動量。それらを試合中ずっと維持する、カラダとアタマの持久力。そのどれもが、岐阜を大きく上回っていた。それでも、主力を何人かスタメンから外したにしては、岐阜はよく戦っていたと思う。前半終了間際の不運な失点も、後半アタマから川西を入れて『個人の技』でなんとか打開できるかも、とも思った。

それも、後半開始40秒かかの「秒殺ゴール」で粉砕され、オンプレーの際にポジションを高く取る松本の傾向を(去年は一緒にやっているのだから当たり前だが)知っている秋田の江口に連続得点を奪われ、正直言って試合の勝敗はどうでもよくなった。だって、サッカーにグラブスラム(満塁ホームラン)はないからね(苦笑)。

それでも、ぼくが『希望に満ちた』と書くのは、こんな敗戦でも岐阜の選手に輝いたプレーがあったから、とかではない。「プロサッカーはタレントとそれを集めるマネーで決定づけられる」という、いわば国際標準化したテーゼに秋田がアンチをつきつけているからだ。秋田の選手・スタッフの人件費は、おそらく岐阜より低いと思われる。雪が多く降る北国を拠点とするクラブでもあり、ハード面の練習環境が岐阜より良いとも考えにくい。それでも、その状況でこれだけのサッカーをするチームを作ることが出来る。これは、岐阜のように地方都市を拠点とする財政が潤沢でないクラブにとっては、大いなる希望だ。「ウチには出来ない」ではなく「ウチはやっていない」だけだということ。ならば、やればいいのか。出来るのだから。(吉田鎬造)